

博物館ちよこっと体験コーナー

かん なおこ かとう ゆりえ しばた みなこ
菅 尚子・加藤友里江・柴田美奈子
たけざわ みき たんの としこ
竹澤美貴・丹野利子（教育専門員）

“ちよこな”って知っていますか？

みなさん、神奈川県立生命の星・地球博物館（以下「当館」）で“ちよこな”という言葉聞いたことがありますか？ 足繁く博物館に通って下さっている方なら、きっと聞いたことがあるはず（多分…）。“ちよこな”は、2011年度から当館で行っている、「博物館ちよこっと体験コーナー」の、ちよこっとの“ちよこ”とコーナーの“ナ”を組み合わせた愛称なのです（図1）。当館では愛称“ちよこな”で浸透しており、みなさんにもこの“ちよこな”で親しんでいただければ幸いです。

ちよこなでは、来館される方々に少しでも多くの事を学び、楽しんでもらうためのお手伝いとして、体験型イベントを行っています。週末、夏休み、冬休みなど、子ども達（主に幼児から小中学生）が来館しやすい期間に開催していますが、大人の方が一緒に楽しめるイベントもたくさんあります。事前申し込みや参加費用は必要ありませんので、来館していただければ、気軽に参加することができます。当館のHPやチラシで各週末のちよこなの詳細をチェックすることもできます。

今回は、2012年度のちよこなについてご紹介したいと思います。

2012年度のちよこな

2012年度のちよこなは、4月に新しく入った教育専門員5人が中心となりスタートしました。教育専門員と一口で言っ

ても、個々の経歴は様々で、5人中4人はそれまで博物館で働いた経験はありませんでした。右も左も分からない中、まずは昨年からのイベントを引き継いで開催し、参加者の様子をみながらという手探りのスタートでした。

5月の大型連休が終わるころには、博物館の雰囲気やちよこなの開催にも徐々に慣れ、新しいイベントを企画することにしました。まず、他の博物館で事前申し込みを必要としないイベントの開催状況を調べ、実際に開催に携わっているスタッフから聞き取り調査を行いました。多くの博物館では、同様のイベントが開催されており、その内容は館によって様々でした。そして、イベントには、多かれ少なかれその館の特徴があらわれており、それがイベントそのものの面白さにつながっているのではないかと考えました。そこで、イベントの企画案は、当館の特徴やおもしろさを少しでも取り入れる事を目標としました。学芸員や職員の助言、協力を得ながら、新しいイベントを多数、企画することができました。

2012年度のちよこなの活動として特筆すべきは、なんといっても開催回数多さと豊富なイベント内容です。これまで（2013年1月現在）、ちよこなで開催しているイベント内容は15種類あり、4月からの開催日数は延べ130日、参加者数は延べ9,500人になります。イベントは、毎週末に加え、夏休みは毎日開催しました。夏休み前にはスタッフが1人入れ替わることもありましたが、皆で力を合わせ、夏休みを乗り切ることができました。うれしいことに、夏休みの開催では、毎日のようにイベントに参加してくれる子どもや、これをきっかけとして、その後、ちよこなの常連になった子どもが数多くいました。さらに、常連となった子どもたちの中には、「将来は博物館で働く人になりたい！」と、将来の学芸員候補（？）も誕生しました。

イベント開催を重ねていくうちに、内容や開催の手際等の精度も上がり、来館者、周辺の住民の方のちよこなに対する認知度も高まってきて、最近ではちよ

こなの参加を目的として来館する方もいます。ちよこなを今後も継続していくためには、皆さんの理解や協力はもちろん、これまで開催したイベント等のノウハウを残すことも重要です。ちよこなでは、2012年度の活動を小冊子にまとめ、来年度からのさらに充実したイベントの開催を計画しています。これからもちよこなから目が離せませんよ！

多彩なイベント

先ほども少し紹介しましたが、現在ちよこなで開催しているイベントは15種類あり、そのほとんどが今年から開催している新しいイベントです。その内容は多岐にわたり、対象年齢も幼児から大人と幅広く広がっています。その中でも、参加者に評判の良かったイベントをいくつか紹介します。

まず幼児から小学生を対象とした“えいごかるた”です。当館には、巨大な恐竜や隕石から豆粒ほどの昆虫まで1万点にのぼる実物標本が展示されています。その中でも、ちよこなスタッフが選りすぐった展示標本を英語のカルタにしました。みんなでカルタ遊びをした後は、標本名を英語で覚えて、さらに、カルタで覚えた標本を展示室で見つけてみましょう。特に自分でとったカルタの標本は愛着がわくはず（図2）。

カルタはちよこっと簡単すぎて…、という小学生には、“博物館検定”などいかがでしょうか。展示室内のテーマごとに、標本に関するいくつかの問題があり、全問正解した方には、認定証を発行しています。解説付きの小冊子を渡します。じっくり読みながら、大人の方と一緒に展示室内を回るのも、一つの楽しみ方です。



図2 えいごかるたの様子。



図1 ちよこなのロゴ。

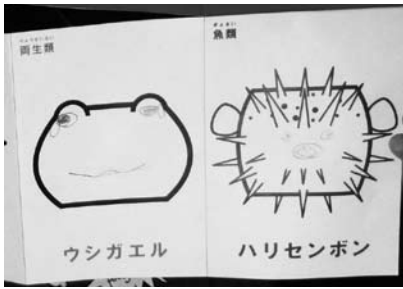


図3 フェイスブック.

お絵描きや動物が大好きな子どもにぴったりなのは“いきものフェイスブック”です(図3)。動物の顔の輪郭だけが描かれた小冊子に、動物の顔をじっくりと観察しながら、動物の目や鼻、口を描きこんでいきましょう。動物の顔にかくされた、生きるための様々な工夫を見つけることができるのでしょうか?

男の子に人気があるのは、やはり恐竜関係のイベントです。当館にはさまざま

な恐竜の骨格標本があります。でも、これらの恐竜はどんなふうに肉がついていたのでしょうか?“My 恐竜を作ろう!”では、骨格模型を観察しながら、新聞紙で恐竜の骨格を作った後、どんなふうに肉が付いていたのかを考えながら、恐竜の姿を作っていきます。完成した恐竜は様々で、一つとして同じものはありません(図4)。

当館には、標本はたくさんあるけれど、動物園のように、生きている動物を見ることはできません。しかし“ヤギを知ろう!! ツアー”では、特別ゲストとして二頭のヤギが来てくれました。動物担当学芸員によるヤギについての講座を受けた後は、ヤギとのふれあいもありました。ヤギはどんな草を食べるのか、目や爪はどうなっているか、参加した子どもは興味津々でした(図5)。



図6 顕微鏡で冬芽を観察する様子.

“けんぴきょうで大発見!”ではいつも見ている世界が予想外のことに!! 実体顕微鏡を使って、植物、昆虫、魚など身近にあるものを顕微鏡にさわりながら観察してもらいます。いつも見ているものが、実はあんな形になっていたなんて…と多くの参加者から驚きの声が寄せられます(図6)。

何度でもちょこなと博物館に!!

みなさん、当館にはどのくらいの頻度で行きますか? 多くても1年に2回くらいでしょうか。ちょこなに参加するために、1か月に1回は来ている子ども達があります。ちょこなに参加する前、参加した後は展示室も見ている様です。子どもによっては、「今日は、展示室のこれを見る!」という子もいます。博物館は何度来ても楽しい場所です。年齢や目的によって同じ展示物でも違った見方、新たな発見があります。ちょこなでは、これからもそんな発見のお手伝いをしていきたいと考えています。10月下旬からは、“ちょこなスタンプカード”も始めました(図7)。ちょこなに参加するごとにスタンプを1個押します。スタンプを3個めるとお楽しみが待っています。

週末には、「ちょっと出かけてみようか?」と気軽に当館にいらして下さい。ちょこなスタッフ一同、お待ちしております。



図4 骨格模型と新聞紙で作成したMy 恐竜.



図5 ヤギにアオキをあげる子供.

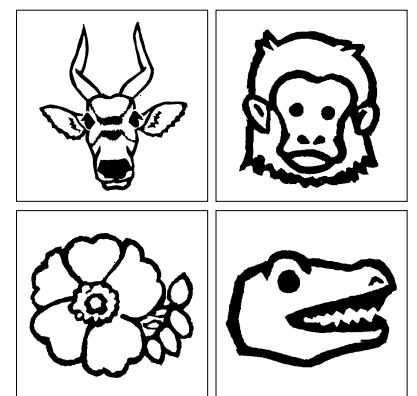


図7 イベントに参加するともらえるスタンプ. 種類はほかにもあります.